

+ 輸血情報

【赤十字血液センターに報告された輸血後GVHDについて】

1993～1995年の3年間に赤十字血液センター（以下、血液センター）に報告された輸血後GVHDの件数・内容等の内訳について示しました。

図1. 輸血後GVHDの報告件数とマイクロサテライト-DNA解析によって診断された数

1993～1995年の3年間に30例（うち2例が院内血）がマイクロサテライト-DNA解析により輸血後GVHDと診断されました。

図1 輸血後GVHDの報告件数とマイクロサテライト-DNA解析によって診断された数

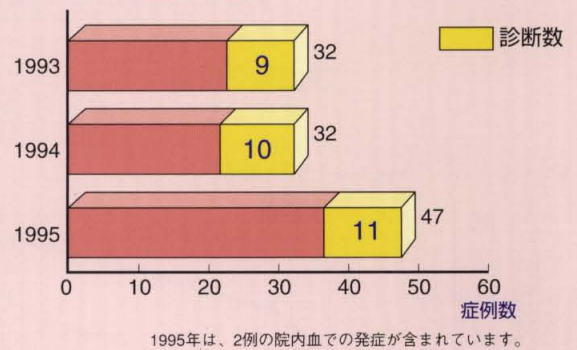


図2. 輸血後GVHDの原疾患の推移

原疾患では、心臓血管外科手術患者の発症は年々減少傾向がみられますが、担癌手術患者での発症は引き続き高く、他の疾患での発症も確認されています。

図2 輸血後GVHDの原疾患の推移

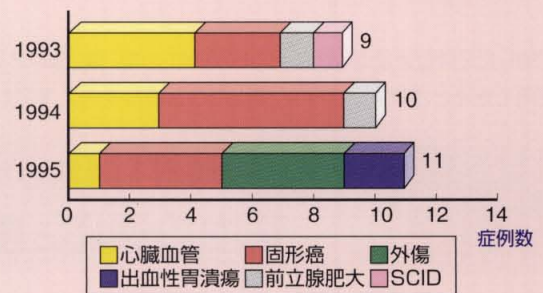
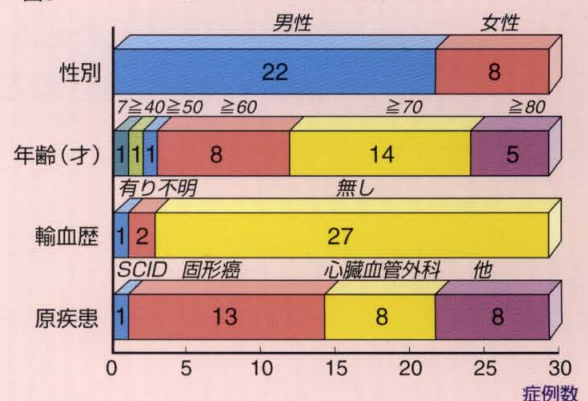


図3. 輸血後GVHDの背景因子

図3に示すように、男性、初回輸血患者、高齢者に多く発症しています。また、グラフにはありませんが原因血は赤血球で新鮮なものが多く、確認された保存期間の最長は濃厚赤血球で11日、赤血球M・A・Pで9日でした。白血球除去フィルターの使用例も30例中5例ありました。

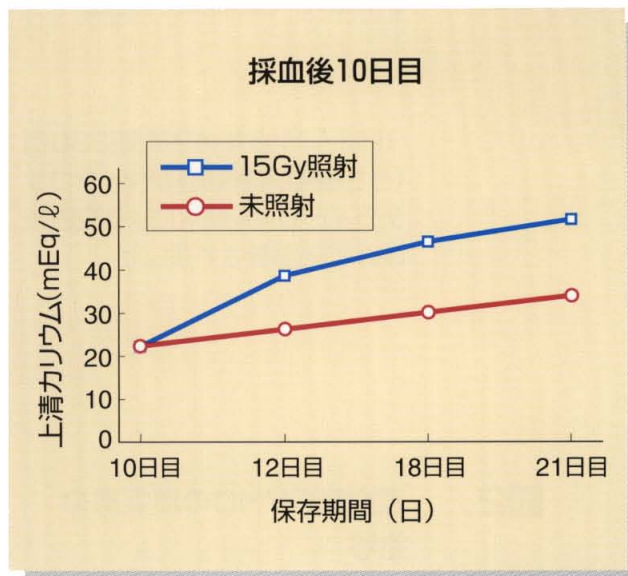
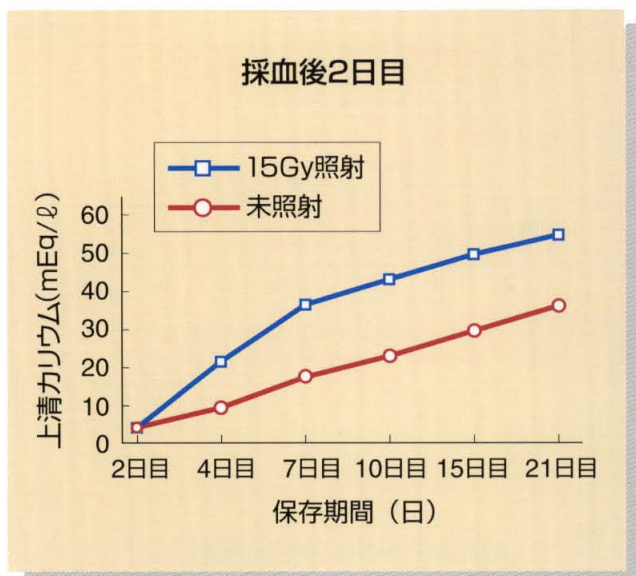
図3 輸血後GVHDの背景因子



●輸血後GVHDの予防

- ・輸血の適応を厳密にし、不必要な輸血を行わない
- ・近親者間の輸血は避ける
- ・自己血輸血を行う
- ・放射線照射した血液を使用する

●放射線照射による上清カリウムの上昇(400ml由来 赤血球M・A・P「日赤」)



(データ：中央血液センター)

照射した2単位赤血球M・A・P1バッグの上清には、保存21日目で約6mEqのカリウムが含まれています。通常は非照射血とほぼ同様に使用できるとされていますが、高カリウム血症をきたす恐れのある小児、腎障害患者、急速大量輸血患者では速やかに使用してください。

輸血副作用を考慮した

輸血の適応と患者への説明と同意 が重要です

異常がみられたら直ちに輸血を中止し、適切な処置をとること

血液センターでは輸血副作用の原因究明のための検査を行っています。

輸血に用いた血液バッグやセグメント等の保管、患者血液(輸血前・後)の提出等のご協力をお願いします。

副作用が発生した場合には、直ちに血液センター医薬情報担当者(MR)までご連絡ください。

日本赤十字社中央血液センター 医薬情報部
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-31
TEL:03-5485-6607 FAX:03-5485-7620

■お問い合わせ